

## (4) 総合的な課題

これまでの課題を踏まえ、緑に関する総合的な課題を整理します。

### 基盤となる緑の保全と強化

#### 都市の骨格となる緑の保全と強化を図る

見沼田圃・荒川・元荒川や鴨川・鴻沼川などの河川は、緑の骨格として保全・活用・継承するとともに、さらに強化していくことが求められます。特に、見沼田圃と荒川、元荒川は、さいたま市のシンボルとなる緑であり、都市づくりの軸として活かす必要があります。

#### 都市レベル・地域レベルに核となる緑をつくる

さまざまな活動の中心となるような公園緑地が不足しているため、都市レベル・地域レベルの特性にあった核となる緑づくりが必要となっています。また、公園の不足する区域では、地域に応じてさまざまな緑を配置することが必要です。

#### 市街地を包む農地や樹林地などの緑を保全する

荒川周辺・綾瀬川周辺の農地や市の西北部・東部・東北部の武蔵野の景観を伝える区域は、市街地を東と西から包むように広がっており、農業生産の場であるとともに、多様な機能を持っています。このため、これらの市街地を包む緑の維持・保全が必要です。

### 地域に点在する多様で身近な緑の保全・活用

#### さいたま市らしい特色のある緑の保全と活用を図る

屋敷林と雑木林、歴史・文化を伝える緑や農地など、さいたま市らしい緑が減少し続けています。このような緑は、うるおいや安らぎを与え、生き物の生息環境をつくるために保全するとともに、活用していく必要があります。

#### 市街地の形成にあわせた緑のまちづくりを推進する

今後、市街地を形成していく区域においては、点在する緑を保全・活用したまちづくりや、土地区画整理事業などの面的整備にあわせた緑や公園の確保が必要です。

#### 市街地の中央部に緑を積極的に確保する

緑の量が不足している鉄道沿線を中心とした南北にのびる市街地では、公共空間や民有地を活用した緑化をはじめとして、開発などに応じた緑の空間の確保、公園やオープンスペースの確保、駅周辺における緑の創出など、さまざまな手段が必要です。

### 基盤となる緑と身近な緑を活かしたネットワークの形成

緑の少ない市街地中央部と緑の多い東西の地域を結ぶため、3つの大きな緑の骨格、中小河川の身近な緑の軸を基軸とし、緑のネットワークを形成することが求められます。特に、東西方向については、河川・水路・道路などを活用して、全市的なネットワークの形成が必要です。






### 緑のまちづくりを担う人づくりと仕組みづくり

緑の保全・整備と緑化を継続的に推進するためには、市民・事業者・行政の役割を明確にし、それぞれが連携・協働して進めること、また、そのための支援と制度の整備が必要です。




課題図




基盤となる緑の保全と強化

-  都市レベルの骨格となる緑
-  地域レベルの骨格となる緑
-  都市の緑の核となる都市基幹公園など
-  広がりのある農地
-  樹林・農地・集落が一体となって  
郷土らしい景観を伝える区域

地域に点在する多様で身近な緑の保全・活用

-  小規模な樹林・農地が身近に  
点在している区域
-  緑が不足している市街地の中央部など
-  駅・駅周辺の緑

基盤となる緑と身近な緑を活かしたネットワークの形成

-  東西方向を結ぶ緑のネットワークの軸